



2014年8月29日

中野区長 田中大輔 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 上浪 寛
同 保存問題委員会 委員長 安達 文宏
同 中野地域会 代表 安達 治雄



中野サンプラザの活用に関する要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴職におかれましては日頃より、まちづくりの推進や地域文化の発展に注力されていることに、弊会として深く敬意を表します。中でも、旧警察大学校等跡地に展開されております「四季の都市(まち)」のプロジェクトは、いよいよ完成に近づきつつあり、お慶び申し上げる次第です。

この「四季の都市」を含む「中野駅周辺まちづくりグランドデザイン」の次回の改定に向け、中野サンプラザの位置づけにつき以下のように要望させていただきますので、何とぞご高配のほど、お願い申し上げます。

中野サンプラザ(旧 全国勤労青少年会館)の建物は、ご高承のように、建築家 故 林昌二の設計によるもので、林の作品譜の中では、ポーラ五反田ビル(日本建築学会賞)や日本 IBM 本社ビルと同様に自らの創意によるダブルコアのスーパーストラクチャー(*)の構成を採り、極めて複雑な与条件を簡潔で独特な三角形のシルエットにまとめ上げたものです。そのランドマーク性や、1970年代以降 ポピュラー系音楽の言わばメッカとして累々と人気を博してきたことから、久しく中野のアイデンティティの一つとなって多くの人々に愛され、今日に至っております。

(* エレベータや空調等のシャフトを兼ねる巨大な中空柱を両端に配置し、一層分の骨組を梁としてこの両軸に上部荷重を負担させる構造形式)

建築家の業務成果としても特筆すべきものがあり、北側住宅地への日照配慮や、収容機能の相互連携のために、林は3棟だった発注者の計画を1棟にすることを提案し、街区構成に必要な都市計画法上の解決策を自ら発案し実現させる等、建築家の職能領域の広さを証明した作品でもあります。

しかるに、上記「グランドデザイン」の現行版では、現中野区役所の敷地との一体化による大規模集客施設の計画が謳われており、また報道では、これに伴い2018年以降にサンプラザは取り壊される予定とも伝えられています。

確かに、現サンプラザの建物には中野通りとの呼応性など、改善の必要な点があることは否めません。しかし、この建物が予め中野駅西口新設を想定して作られていること、構造的にも二百年の耐用を前提に設計されていること、そして全国的に知られたその姿が既に中野の顔としての付加価値を持っていること、などから、中野駅周辺まちづくりグランドデザインの改定において、この「中野サンプラザ」の保存活用の有効性をぜひとも再検討いただきたいと思えます。

スクラップ&ビルドの超克は少子高齢化の時代における喫緊の要請であり、また、まちづくりにおける最も挑戦的な課題であるのみならず、環境負荷の低減要請からも必然と言えます。その課題への挑戦の象徴として、広く世に中野の独自性・先進性を示すためにも、この「中野サンプラザ」の再活用を施策に位置づけて頂けるよう、ここに要望いたします。

なお、公益社団法人 日本建築家協会は、その実現に向けて、出来る限りの協力をさせて頂く所存であることを申し添えます。